

かんぽ生命保険の投資子会社保有に関する
郵政民営化委員会の調査審議に向けた意見募集の結果

令和5年3月23日
郵政民営化委員会事務局

1. 寄せられた意見の数

【団体1件、法人3件、個人2件、合計6件】

2. 提出された意見

(提出順)

No.	提出者	意見概要
1	個人	本件の「意見提出が30日未満の場合その理由」は何ですか？
2	日本郵政グループ労働組合	<p>今般認可申請が行われた投資子会社保有により、健康増進、介護・相続等のお客さまの生活に寄り添うサービスの提供を通じて、お客さまにより身近に感じていただくことにより信頼関係を構築し、保険商品の提供につながる可能性もあると認識しており、新契約件数の増加によりかんぽ生命保険の経営の安定化に資すること、また、かんぽ営業に携わる社員のモチベーション向上も期待できることから、当組合としては本件申請に賛同します。</p> <p>なお、「かんぽ不適正営業問題」によって大きく失墜した国民の皆さまの信頼と低下した働く者の誇りを取り戻すため、当組合としても全力で取り組んでいく所存です。今後とも郵政民営化委員会においてご支援いただくとともに、民間企業として当たり前の経営の自由度を確保いただくよう、引き続き要望します。</p>
3	法人 (匿名希望)	かんぽ生命保険の投資子会社について、「テロリストのカルト集団」との関わりの有無について厳格な調査、及び、審査を行うことを要望いたします。
4	株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ	<p>研究開発型スタートアップは、革新的な研究成果を社会実装することで、ウェルビーイング向上などの社会課題解決につなげる重要な役割が期待されています。シード期やアーリーステージにおいては、弊社をはじめとした大学発ベンチャーキャピタルが成長資金を提供しています。他方、グロース段階における成長資金の担い手は、主要先進諸国と比較すると未だ充分ではありません。我が国のイノベーション・エコシステムの資金循環促進に向けて、かんぽ生命保険規模の金融機関の参入は歓迎です。資金と事業基盤の提供を通じてビジネスの橋渡しとなっただけ、技術や発明、イノベーションによる社会課題の解決に貢献していただくことを期待しています。</p> <p>以上のことから、かんぽ生命保険の子会社であるかんぽ NEXT パートナーズをベンチャー企業への投資業務を行う会社とすることについての実現を期待します。</p>

No.	提出者	意見概要
5	個人	<p>反対である。</p> <p>不要であり（事業展開についての事などはシンクタンク等にでも検討を委託すればよいはずの事と考える。）、不適切な利益供与等の不正の発生がある可能性があるため不適切と考える。</p> <p>政府が関わるような事業でこのような事は行わないべきであるので、かんぽ生命株式会社配下でベンチャーキャピタル事業を行う事についてはやめられたい。</p>
6	法人 (匿名希望)	<p>政府の掲げるスタートアップの数も質も10倍という目標を掲げる中、新たに日本を代表する企業によるコーポレートベンチャーキャピタルファンドが立ち上がることは、スタートアップエコシステムの発展の観点から大いに歓迎すべきことと考えております。社会のインフラ企業として、中長期的な事業シナジーの実現を見据え、長期にわたってスタートアップへの投資活動を継続していただきたい。生損保業界各社、近年スタートアップ投資に積極的に取り組んでいると理解しており、かんぽ生命保険が開始するのはまさに時の利を得ており、スタートアップエコシステムにとって良いニュースと考えております。また、スタートアップ企業における資金調達額は年々増加しており、直近2022年は8700億円超となっているが、政府の掲げる10兆円規模のリスクマネーに向けて、ぜひ大いなる活躍を期待しております。</p>